平成 24 年度「みえの現場・すごいやんかトーク」（紀宝町）の概要

７月２４日（火）に紀宝町福祉の店「アプローチ」で「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「アプローチ」の運営に携わっている方や利用されている方など１２名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。

【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

○ 「アプローチ」の３つの特徴は、地域住民のたまり場的な機能、地域で作った野菜等を販売する地産地消、ほっかほっかの弁当、パン、惣菜の販売などである。
○ 三重県内の B 型事業所の平均工賃は、月 13,000 円であるが、「アプローチ」は、23,000 円で 3,000 円のボーナスと合わせると三重県の平均工賃の倍である。
○「アプローチ」には、一般の方と障がいのある方との出会う場という位置づけもある。
○ 地域住民としては、社協は仲間であり、その社協がお店を開いているということで安心であるし、何よりお店の雰囲気が素晴らしい。「アプローチ」のようなお店が三重県内に拡がっていき、また、全国的に拡がって欲しい。
○ 店内でコーヒーの提供も行っているが、接客する従業員には、聴覚障がい者もいるため、地域の方に「ありがとう」という手話を覚えていただき、障がい者に対する

理解が広がることを期待している。
○ 手作りのパン工房があるが、1日３００個から３５０個のパンが完売の状態である。パンは、出来るだけ地元のものを手をかけて作っていきたいと考えている。
○ 売り上げを伸ばさなければならないが、地域の人に愛される「アプローチ」でありたい。
○ 紀宝町の中には、買い物に困っている高齢者がいるので、できれば、あらかじめ予約を受けての宅配業務をやりたい。そのときに問題になるのが、双方向の通信手段をどうするか。
○ いくら不便な地域でも、住み慣れた地域で安心していつまでも健康で生活してもらえるためにこの店を拠点にしながら、紀宝町内から買い物困難地域の解消を目指していきたい。
○ 「アプローチ」で働く障がい者は、紀宝町内だけでなく、御浜、熊野、那智勝浦町などからも来ている。障がい者にとって県境とか町境なんてありませんよって言われて、はっと僕らは思った。

知事の似顔絵の描かれたケーキがプレゼントされ、参加者でいただきました。

従業員の方から「アプローチ」で働く楽しさを伺いました。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

○ 「アプローチ」は、障がい者の働く場という意味だけでなく、買い物困難者の方の買い物支援対策であったり、地域のたまり場的な機能など複合的な目的で設置されている点がすごい。
○ 「アプローチ」は、いい仕組みであり、県もどう支援できるか検討したい。
○ 「アプローチ」は、福祉について学べる場である。
○ 双方向の宅配業務で検討している通信手段は、社会福祉協議会で考えていただきたいが、支援が出来ないか考えたい。IT を活用した徳島県の上勝町の葉っぱビジネス

の例もある。現在の制度のなかでも使えるものがないかを検討したい。

※　パン工房の名前を付けて欲しいとの要望を受け、知事から「パン工房　結（ゆい）」という名前が提案され、皆さんの賛同を得て、決定しました。
これは、地元のおいしい食材と、地元の人たちを結びつける。また、ここはたまり場で人と人の心を結びつけるという想いで付けた名前です。